

Contents Vol.220

2020.4.1

01 ごあいさつ

新入生の皆さんへ

03 巻頭特集

- 1 ハンドボール部女子
インカレ7連覇優勝祝賀会
- 2 大体大PEOPLE
池田 有美・ヨガインストラクター

05 NEWS

- 1 第71回日本ハンドボール選手権大会
大体大史上初の準優勝
- 2 ハンドボール部女子
ユニバーシアード男子サッカー日本代表チーム
読売新聞社の第69回日本スポーツ賞受賞
- 3 大阪体育大学セミナー
エディスコワン大学 野坂和則教授講演
- 4 日本アダプテッド体育・スポーツ学会
大阪体育大学で初開催
- 5 公務員試験
- 6 教員採用試験
- 7 令和2年度入試状況
- 8 新型コロナウイルス対応

09 EVENT

- 1 大島録吉賞に4監督
- 2 運動部改革プランシンポジウム
- 3 学長特別表彰
- 4 記念シンポジウム
海洋スポーツキャンプ実習30周年
- 5 記念シンポジウム
スポーツ科学センター20周年
- 6 菅平でスキー実習
- 7 特別支援教育をテーマに教育講演会開催
- 8 1、2年生向け就職支援キャリアフェスタ

14 コラム「ボーシャー」
コラム「窓」

新入生の皆さんへ

予測不可能な 未来で活躍 できる人材に

学校法人浪商学園

理事長 野田 賢治



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。学園を代表して心からお祝い申し上げます。

今年、日本で2度目の夏季オリンピック・パラリンピックが開催されます。1度目も今回と同じ東京で1964（昭和39）年に開催されました。第2次世界大戦で焼け野原となった東京が、戦後20年を経て、復興した姿を世界に示す良い機会となりました。当時の日本は、右肩上がりの経済成長が続き、新幹線の開通や、東京オリンピック開催等は、経済大国に向かって躍進する日本のすがたを象徴するものでした。

経済発展に伴い進学率も上昇を続けていました。高校への進学率は、1955（昭和30）年51%であったものが、1975（昭和50）年には92%にはね上がりました。大学への進学率も、1955（昭和30）年10%、1965（昭和40）年15%、1975（昭和50）年38%へと上昇して行きました。ちなみに昨年度は58%でした。

このような時代背景の中で、当時の理事長、野田三郎（初代学長）は、浪商教育の根底に流れる「スポーツを通して青少年の健全育成」の理念のもと、大阪体育大学創設を決断しました。そして、1965（昭和40）年東京オリンピックの翌年、開学にこぎつけました。

開学にあたり、東京オリンピックの強化本部長・選手団長を務められ、後に日本人初のオリンピック平和賞を受賞された大島鎌吉先生（1932年ロサンゼルスオリンピック陸上男子三段跳銅メダル獲得）を副学長として、また東京オリンピックスポーツ科学委員で、後に日本体育学会会長に就任された加藤橋夫先生を学部長としてお迎えしました。体育・スポーツの最先端におられたお2人の思いが、大阪体育大学の教育の源です。50年以上経った今も色あせることなく脈々と受け継がれています。

今、社会では、予測不可能な未来で活躍できる人材が求められています。すなわち、時代の変化に対応し柔軟な思考力で社会を支え自ら考え、臨機応変に社会改革に挑める。そんな人材が求められています。まさに、アスリートに求められる資質そのものです。

大阪体育大学での学びが、未来社会で活躍できる人間になるための近道と信じて悔いのない毎日を送って欲しいと思います。

勉強に課外活動に遊びにと、4年間というのは長いようで、終わってみれば「あっ」という間の出来事に違いありません。新入生の皆さんが、充実した学生生活を送られることを願ってあいさつとします。

将来に向かって 模索と葛藤の 大学生活を

大阪体育大学

学長 岩上 安孝



新入生の皆さん、大阪体育大学、入学おめでとうございます。

いよいよ大学生活が始まりますね。皆さんは自分自身をどのように見つめているのでしょうか。現在の成人式に相当する「元服」と呼ばれた昔の習わしでは、男子は11歳から17歳ごろまでに大人の仲間入りを示すための儀式が執り行われておりました。

大人とは、何歳から大人なのかは明確には言い切れませんが、2015年に、これまで20歳としていた選挙権の年齢が70年ぶりに18歳へと改正され、責任を伴う社会の一員となる基準年齢が引き下げられました。

成人としての能力や資格があることを「一人前」と申しますが、自分の意志で将来の歩み方を模索し、自立、独り立ちに向かって葛藤を繰り返しながら、社会的にもより一人前に成長していくことが望まれてまいります。

高校生から大学生へと人生の新たな節目に当たり、大学生活をどのように描いていくのかは皆さん一人一人が考え決めていかねばなりません。皆さんは、学問の基礎となります教養に磨きをかけ、「心と体の関わり」、「体育・スポーツと社会の関わり」などの専門領域を幅広く学びつつ、クラブ活動にも仲間と切磋琢磨しながら没頭していく。一人前を目指すのなら、これからの4年間、これまでよりも多少無理をしていく覚悟を持って歩んでみては如何でしょうか。

オリンポスで灯された聖火は、既に福島をスタートし、7月24日のオープニングセレモニーに向けて日本列島を隈なくリレーされつつあります。

また、一喜一憂する中で競技ごとの代表入りを目指す戦いも佳境に入り、金メダル30個を目標とする日本選手団の姿が浮き彫りになりつつあります。

本学は、創設（1965年）間もない1972年、第20回ミュンヘン大会に初のオリンピック選手を送り出し、その後もモントリオール（1976年）、ロサンゼルス（1984年）、バルセロナ（1992年）、アテネ（2004年）、北京（2008年）、ロンドン（2012年）、前回のリオ（2016年）へと繋げてきております。特に、バルセロナではシンクロデュエットの高山亜樹選手が、アテネでは野球の上原浩治投手が銅メダルを獲得しております。代表の座を射止めることは容易なことではありませんが、自国開催の東京、選手はもとより指導者やサポート役としても沢山の本学関係者が活躍されますことを楽しみにしております。

新入生の皆様には、新たな環境の中で始まります大学生活、常に半歩前を見据え、自らの可能性を信じて乗り切ってください。

ハンドボール部女子

インカレ⁷連覇 優勝祝賀会

支えてくれた卒業生、保護者に感謝



優勝祝賀会で壇上に上がったハンドボール部女子



握手を交わす野田賢治理事長（右）と楠本繁生監督



参加者にお礼を述べる
小林博隆部長

感謝の言葉を述べる
秋山静香主将



大いに盛り上がる会場

大阪体育大学ハンドボール部女子が2019年11月の高松宮記念杯女子第55回全日本学生ハンドボール選手権大会（インカレ）で、前人未踏の7連覇を達成したのを受け、2020年1月4日、大阪市北区のウエスティンホテル大阪で優勝祝賀会が開催された。関係者約230人が集まり、プレッシャーに耐えて優勝をつかんだ選手らに惜しみない拍手を送った。チーム、大学関係者からは、陰で支えてくれた卒業生、保護者らに感謝の言葉が述べられた。

岩上安孝学長はあいさつで「青春の1ページ、汗の1滴1滴が積み重なり、優勝の2文字を書き上げた」と選手らの奮闘を称えた。学校法人浪商学園の野田賢治理事長は「6連覇の新記録を作った時は記録更新を期待したが、まさか本当に実現するとは。ここまで来たら10連覇を目指してほしい」と激励。野田理事長が

ら楠本繁生監督に優勝奨励金と「大島鎌吉スポーツ賞」が贈呈された。

ハンドボール部の斉喜俊也・OB会長が「全試合で相手チームを圧倒していた。本当に強かった。感動をありがとう。OBとして誇りに思います」と乾杯の音頭を取り、正面スクリーンでは学生が作成した試合の様相を伝える動画が披露された。

7連覇を記念して大体大ハンドボール部から「指導者表彰」があり、香川県立香川中央高校の河合哲教諭、田中潤教諭（いずれも大体大卒業生）と明光学園高校の西窪将志教諭が壇上へ。3人はハンドボール部を指導する教諭で、香川中央高校は男子、明光学園高校は女子が選抜大会、インターハイ、国民体育大会で優勝する3冠を達成した成果が評価された。

い指導をしてくださった楠本先生を始め、トレーニングや体のケアをしてくださったチームスタッフの方々、本学の歴史を築いてこられた先輩方、大学関係者の方々のお陰です。そして、どんな時でも支えてくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです」と述べた。

楠本監督は「大体大に来て10年、（インカレでは）8回の優勝をさせてもらったが、2回、決勝戦でひどい負け方をした。この負けた悔しさがあって今日に至ると思っている。大体大に来てくれる学生を誇りに思いながらこれからもやっていきたい」とあいさつ。最後は小林博隆部長が「このような会が開けて本当にうれしい。大阪体育大学は選手だけでなく、卒業生の指導者も育っている。皆様から愛される大阪体育大ハンドボール部であってほしいと願っている」と参加者にお礼の気持ちを込めて閉会の辞を述べた。



池田有美（いけだ・ゆみ）
1977年6月21日生まれ。大阪市出身、大阪市在住。
大阪体育大学体育学部卒業、32期生。ヨガインストラクターとして、
ヨガスタジオ「コトモット」の屋号で活動。幼稚園、保育園、障害
者施設などに「出前ヨガ」を実施。家族は夫と2男。

マイペースでみんな笑顔 ヨガの懐の深さに魅せられて



ヨガインストラクター 池田 有美さん

新型コロナウイルスのニュースが連日報道される2020年2月末、大阪市内にある池田有美さんのヨガスタジオ「コトモット」取材で訪問した。名インストラクターとして引つ張りだこの「出前ヨガ」は、軒並みキャンセルになっているという。

「学校が休校になるぐらいだから、ヨガ教室の中止は仕方ないのだけれど、ヨガは免疫力を高めるので、本当はこんな時ほどやった方がいいんですけど……」とヨガの専門家らしく効能をコメントした。

大阪体育大学時代の恩師、福田芳則教授は3月末で退任。新型コロナウイルスのため、3月に予定されていた慰労パーティーは中止、最終講義は延期になった。「絶対に行くつもりだったのに」と残念がる池田さんに、福田教授自身が心遣いから強く希望したことを伝えると、「福田先生らしいですね」と微笑んだ。

ヨガを始めたのは、長男が生まれてまもなくの頃。運動が大好きなのに、子育てに追われて思い切り体を動かす機会がなく、ストレスが溜まっていた。授乳の合間の1、2時間でできることはないかと考え、近所のヨガスタジオに通うことにした。

「母親に長男を預け、ぱっと行って、ぱっと帰って来る。それだけでも随分、体も気持ちもすっきりし、ヨガっていいなと実感しました」

この時のヨガとの出会いが、その後、

池田さんのライフワークになる。

「ヨガの良さは、短い時間でもできるし、お年寄りから子供まで誰でも自分のペースに合わせてできること。自分で自分の体を動かせない脳性まひの子供は、ヨガのポーズに沿って手足を動かしてあげると、表情がふわっとするんです。筋肉が伸びて気持ちいいんでしょうね。自分が気持ちいいと思えばそれでOK。ヨガって懐が深いんです」

大阪体育大学に在学時、クラブ活動にはレスリングを選んだが、女子のレスリング部はなく、何と「男子と一緒に練習していた」と言う。「体のぶつかり合いが快感なんです。対戦相手が憎くてぶつかっているわけじゃない。相手へのリスクペクトを持ちながら、組まれたり、逃げたり。私にとってスポーツの体のぶつかり合いは、一種のスキップなんです」と自己分析する。

卒業後は、「移動動物園」の会社就職。羊、ヤギ、ポニー、ウサギなどを飼っており、トラップに積んで幼稚園や保育園を回る業務をしている会社だった。子供も動物も好きなので、その両方が揃う仕事に魅力を感じ、「動物と接すること、子供たちに命の大切さを伝えよう」と就職したが、現実には池田さんの思いとはかなりギャップがあった。

「当時の経営者は利益優先の方針で、動物たちがモノのように扱われていた。病気になってもお金がかかるからと治療してくれない。だんだん私自身も体に不調をきたすようになって、1年ぐ

らいで限界だと判断して会社を辞めました」

子供との係わりは続けたくて、保育園で働きながら保育士の国家資格を取る。池田さんの幼児教育への関心は、大学時代に経験したことがベースにあるという。アルバイト先のYMCAで小さな子供たちに体操を教え、無限の可能性に「幼児体育って面白い」とワクワクした。もう一つは教員免許を取るための教育実習だ。

「バレーボールの授業を任されたのですが、積極的にプレーしようとする子もいれば、ボールが飛んで来ると逃げて全然ボールに触れない子もいる。この違いは、幼児期にボール遊びをしたかどうかにまでさかのぼるんです。幼少期に体をしっかり動かして、自分の体のことを知っておくのは、その後の長い将来に影響すると、幼児体育の大切さを教育実習で再確認しました」

保育士となった池田さんは結婚、出産を機に保育園を退職。生まれた長男は、1歳で自閉症と診断される。「赤ちゃんなのに昼寝もしないし、歩けるようになってからは深夜まで動き回る。睡眠時間が短いんです。面倒みている私が睡眠不足でストレス溜まるはずですよ」と振り返る。

体を動かすのが得意ではない長男が、どうすれば運動に馴染めるだろうか考えた。ヨガならできるのではないかと、また、自身をみてみれば、親に子供を

預けてヨガ教室に通っている。親子が一緒にできればもっと楽しいのでは。長男の障害と向き合ううちに、「自分がやるべきこと」のイメージが浮かんできた。

次男を出産後の2013年、ヨガインストラクターの資格を取り、翌年、自宅近くにヨガスタジオを開設。「こどももともと、こどもももともと」の思いを込めて「コトモット」と名付けた。キッズヨガ、親子ヨガ、産後のママヨガなど多彩なメニューを用意。ハンディキヤップのある子供たちにもどんな来てほしいと積極的に発信し、障害者施設には出向いて行くという。保育士の資格も持っているからか、「出前ヨガ」は幼稚園や保育園からの希望も多い。

「子供によって情報をキャッチする能力には個性があります。視覚からの情報がすんなり入る子には『こうやるんだよ』と私が手本を見せてあげればいい。聴覚からの情報に反応する子には言葉を尽くして説明してあげる。『腕を上げて』と言ってもできない子に、『天井を触ってみよう』と言ったらピンと両腕が伸びたりする。伝え方次第です」

長男は中学生になってぐんぐん身体能力を伸ばした。

「中1の運動会はもう見ていられない状態だったのに、中2になると人並みになっていて、中3の時は『あれ？他の生徒より速く走ってるやん』って。息子はスロースターターだったんですね」

8年前からは毎年秋に大阪市・中之島公園で開催される「アウトドアヨガ祭り」の実行委員会のメンバーになった。何百人も集まる大イベントで、準備は大変だが集まった人々の笑顔にやりがいを感じる。一生懸命にポーズを決めようとする人もいれば、子供を抱っこしながらのヨガもあり、ゴロゴロ転がっているだけのチビっ子がいて、

障害で体を動かせない人はスタッフに体を動かしてもらっている。それでいいんだ、それがみんなヨガなんだ——。心からそう思える。

今年、アウトドアヨガ祭りは10周年。一つの節目を感じながら、企画を練っている。

【OUHSジャーナル編集長
和泉かよ子】



アウトドアヨガ祭り。中央で跳ねている左側が池田さん

第71回日本ハンドボール選手権大会

大体大史上初の準優勝

学生チームの決勝進出は33年ぶり



主将の秋山静香 (体育4年)



エースの中山佳穂 (体育3年)



ゴール前の激しい攻防

大阪体育大学のハンドボール部女子は、2019年12月24日(28日、広島市で開催された第71回日本ハンドボール選手権大会)で準優勝した。強豪の社会人チームと対戦し、大体大史上初めて決勝戦に進出、強豪の北國銀行と大接戦を展開した。

2019年11月に全日本インカレで7連覇を達成したハンドボール部女子は、学生チャンピオンとして日本選手権に出場した。社会人チームに3勝して決勝戦へ。学生チームの決勝戦進出は、東京女子大学が成し遂げて以来、33年ぶり。

決勝戦の対戦相手は、大体大OGの多い北國銀行。前半は11-15と北國銀行にリードを許して折り返した。後半、大体大は粘り強く攻め続け、一時は1点差に詰め寄るが、逆転勝利はならず27-29で試合終了した。

主将の秋山静香(体育4年)は、「実業団チームとの試合は疲労がすごい。1試合ごとに疲労がたまる感じで決勝戦を迎えた。でも、この大舞台でできることをやり切ったと思う」とベストを尽くした充実感を語った。

力を出し切った、楽しかった!



あと一歩だったのに、悔しい!

ハンドボール部女子は、トップレベルのパフォーマンスを当たり前のように求められる重圧の一方で、楠本繁生監督からは「今まで一番弱いチーム」と叱咤され、決死の覚悟でインカレ7連覇を達成。日本選手権を終えてエースの中山佳穂(同3年)は「日本選手権はレベルの高い相手との戦いなので、常にチャレンジャーでいられる。のびのびプレーできた」とはつらつとコメントした。

楠本監督は「ここまで来れたうれしさと、勝ち切れなかった悔しさ。この二つを来年度にどう活かしていくのが、4年生からのお土産だ。しっかり持ち帰り、新しいスタートに結び付けたい」と4年生への労いと感謝の思いを込めた言葉で2019年度を締めくくった。

ハンドボール部女子 ユニバーシアード男子サッカー日本代表チーム 読売新聞社の第69回日本スポーツ賞受賞

チームに交じり3位に食い込む成績を上げた」との内容。

また、大体大サッカー部の田中駿汰(当時・体育4年)と林大地(同)が参加した「ユニバーシアード男子サッカー日本代表チーム」も受賞。2019年7月にイタリア・ナポリで開催されたサッカー、ユニバーシアードで優勝した功績が称えられた。

主要なスポーツ競技大会で輝かしい成績を残した選手、団体に贈られる「第69回日本スポーツ賞」(読売新聞社制定)を大阪体育大学のハンドボール部女子が受賞し、2020年1月17日に東京都内で表彰式が行われた。各競技団体の推薦を受けて授賞しており、選手33人、団体16チームが選ばれた。大体大ハンドボール部女子の受賞理由は、「2019年11月に開催された日本学生選手権の7連覇は男女通じて初の快挙であり、チームの層の厚さを見せつけた。2018年の日本選手権では日本リーグに所属する

「ゆーっくり座れば、一生歩ける!?!」

エディスコワン大学 野坂和則教授講演

大阪体育大学では「運動能力向上と傷害・転倒予防を目指した下肢伸筋群伸張性制御能力の定量化」を全学的なプロジェクト研究として取り組んでおり、2019年12月17、18両日、エキセントリック運動の世界的権威であるオーストラリア・エディスコワン大学の野坂和則教授の講演を開催した。

エキセントリック運動とは、筋肉が引き伸ばされながら力を発揮する運動のこと。ダンベルを持ち上げる運動はコンセントリック（短縮性）運動、持ち上げたダンベルを下ろすのはエキセントリック（伸張性）運動にあたる。

野坂教授は「ゆーっくり座れば、一生歩ける!?!」というユニークなタイトルで講演。椅子にドスンと座らずに、ゆーっくり座る際の筋収縮がエキセントリック運動であり、筋肉のトレーニング効果が高いとした。アスリートのパフォーマンス向上だけでなく、一般人の



野坂和則教授



大学院生向けの講演

老化予防にも役立つとして、研究を進めている。

17日は大阪市内の同窓会館で教職員向けに、18日は大体大で大学院生向けに講演した。院生には海外留学制度の紹介もあり、参加者は熱心に聞き入っていた。



エキセントリック運動をやってみるセミナーの参加者



様々な事例報告がされた学会

日本アダプテッド体育・スポーツ学会（JASAPPE、ジャサペ）の第24回大会が2019年12月7、8両日、「東京2020を好機としたアダプテッド体育・スポーツの真の普及推進をめざして」をテーマに大阪体育大学で開催され、全国から研究者や指導者約1000人が参加した。写真。大体大での開催は初めて。

アダプテッドスポーツとは、障がい者、高齢者、子供、女性など、体の動きに制限があったり、体力の弱い人に合わせ、競技のルールなどをアダプテッド（適合）させたもの。車椅子バスケットボールなどが代表例だ。

JASAPPEは大体大の植木章三・教育学部長が会長で、第24回大会は大体大教育学部の竹内亮教授が実行委員長を務めた。各地でアダプテッドスポーツの振興に取り組む関係者が、実践例を報告し、活発な情報交換が行われた。

日本アダプテッド体育・スポーツ学会
大阪体育大学で初開催

就職状況

公務員合格者は前年度を上回る91人

企業ニーズも高まりをみせる

令和元年度の公務員現役合格者が3月1日現在、延べ91人。前年度の現役合格者78人を大きく上回った。

国家公務員は（刑務官・自衛官・海上保安官・皇宮警察）9人。地方公務員のうち警察官と消防官は延べ77人で、大阪府警をはじめとする警察官は前年度を上回る43人、消防官は過去5年度で最多タイの延べ34人の合格者数となった。地方公務員の行政職も前年度を上回る5人。国家公務員で数年ぶりに海上保安官、皇宮警察の合格者も出した。

大阪体育大学の学生たちのウィークポイントでもある筆記試験での好成績を目標に、公務員試験対策講座（週2回）を開催。学習支援室と連携し、論文対策にも注力して学力向上につなげた。

大体大キャリア支援の特徴であり強みの一つ「学内セミナー」は、部活動所属者が多いことに配慮し、昼休みに実施。内容は企業や団体の人事担当者による説明会、講義など。例年、大体大の学生を新規採用している企業をはじめ、上場企業、医療、食品、生涯スポーツなど多くの業界が年間160回を超える説明会や講座を開催。近年は、体育会系学生の評価が上がっていることもあり、大体大の学生に各業界からの期待や採用ニーズが一層高まっている。

とみられる。

現時点では、企業等に就職する者は389人（一般企業、スポーツ関連、医療・福祉、プロ実業団、3月1日現在）。キャリアアフェスタや、学内セミナーをきっかけに、進路を幅広く思考して決定する学生も多い。

キャリア支援センターでは「学生自らがキャリアデザインを考え、自分の将来ビジョンを設計できるよう支援する」ことを目的に掲げ、1年生のオリエンテーション、2年生のキャリアデザインⅠ、3年生のキャリアデザインⅡにおいて、社会人としての基本やコミュニケーション能力（傾聴力）、社会の仕組みや業界・職種の研究、社会人としての心構えや常識について学べる機会を提供し、明確な目標を持って社会で活躍できる学生の育成を目指している。

【キャリア支援センター】



教員採用試験

年々、厳しくなる中、 現役合格者47人 卒業生もサポート

大阪体育大学年度別教員採用試験（現役）合格者状況（令和2年2月1日現在）

卒業年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
一次合格者	30	56	69	63	70	51	56	96	89
二次合格者	20	30	30	30	27	22	27	52	47

が多数いる。

「教員」という夢を持ち大阪体育大学に入学した学生が、近年の教員採用の厳しさや仕事内容の厳しい状況を知り、進級につれて断念するケースが多く見られる。教職支援センターとしては、教員を目指す学生が、1人でも多くの教員採用試験に合格し教職のスタートラインに立てるよう日々、相談活動や教員採用試験受験対策講座、学内説明会などを実施。模擬面接練習、模擬授業等の指導、エントリーシート作成講座などきめ細かく対策をとっている。

残念ながら不合格になり、講師を希望する学生のために、講師登録説明会や個人相談も行っており、次年度、1人でも多く講師（常勤講師・非常勤講師）として勤務できるよう後押ししている。

また、「卒業しても面倒をみてくれる大体大」として、講師で頑張っているOB、OGに向けて、同窓会会館（アネックス）を利用し、集中講座や面接練習などを実施した。参加者も年々増え、「合格」の連絡が数多く入っている。

教員を目指す学生にとって、教員採用試験合格はゴールではなくスタート。現場に出れば「即戦力」として期待され、教育現場は常に変遷している。そのためにも常に「学び続ける教員」でなければならないことを繰り返し指導している。

【教職支援センター】

令和元年度（令和2年度採用）の公立学校教員採用試験が終了。前年度より多い48の自治体を延べ310人が受験し、現役合格者は延べ47人だった。

内訳は、大阪府10人、大阪市3人、豊能地区2人、京都府2人、京都市1人、兵庫県1人、滋賀県1人、和歌山県3人、北海道1人、千葉県1人、東京都2人、横浜市2人、新潟県2人、岐阜県1人、鳥取県2人、岡山県2人、岡山市1人、広島県2人、山口県1人、愛媛県3人、高知県3人、鹿児島県1人。

私立学校関係の専任教員合格者は1人だが、常勤講師としての採用予定者が

令和2年度入試 総志願者3632人 併願拡充で大幅増

本学の入試制度は総合型選抜（旧A0）、一般選抜など多彩だが、令和2年度は併願制度が大幅に拡充されたこともあり、体育学部は前年度の51%増の2454人、教育学部も51%増の1178人、合計3632人が志願した。

合格者数は体育学部1091人、教育学部430人で合計1523人だった。

体育学部は特別総合型選抜で新たにDASHアスリート特別総合型選抜が新設された。「国際大会出場以上の成績を有する者、同等以上の競技力を有する者」を条件にトップアスリートを選抜する大阪体育大学ならではの制度だ。1年目は世界大会で活躍するなどした4人が合格した。

また、総合型選抜は281人、特別総合型選抜は136人が志願。いずれも前年度と同じ。

一般選抜は体育、教育学部とも学科・コース併願も含めると最大24併願数まで出願が可能になり、志願者数を大きく押し上げた。また、体力テストが必須でなくなり、B日程も新たに

に創設されるなど、制度は大幅に変わった。体育学部の一般選抜は前年度の131%増の1537人が志願した。

教育学部の総合型選抜は前年度の27%増の71人、学校推薦型選抜は10%増の263人が志願した。

一般選抜では教育学部後期日程を含めて前年度の75%増の844人が志願した。

このほか、入試制度はすべての制度でインターネット出願が可能になるなど様々な変更があった。次年度は学校推薦型選抜で体育学部も併願制となり、選抜方法が多様になって受験生が得意分野でチャレンジできるようにするなど大幅な変更が予定されている。

【入試・広報部】

<体育学部>

入試制度	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合型選抜	スポーツ教育学科	30	179	179	32
	健康・スポーツマネジメント	20	102	102	30
	計	50	281	281	62
スポーツ特別総合型選抜	スポーツ教育学科	97	107	107	107
	健康・スポーツマネジメント	23	29	29	29
	計	120	136	136	136
DASHアスリート特別総合型選抜	スポーツ教育学科	3	4	4	4
	健康・スポーツマネジメント	2	0	0	0
	計	5	4	4	4
学校推薦型選抜A	スポーツ教育学科	70	190	189	77
	健康・スポーツマネジメント	35	75	75	48
	計	105	265	264	125
学校推薦型選抜B	スポーツ教育学科	35	136	135	38
	健康・スポーツマネジメント	45	89	89	73
	計	80	225	224	111
一般選抜A日程	スポーツ教育学科	65	583	580	219
	健康・スポーツマネジメント	60	502	497	248
	計	125	1085	1077	467
一般選抜B日程	スポーツ教育学科	20	241	107	100
	健康・スポーツマネジメント	15	211	92	86
	計	35	452	199	186
外国人選抜	スポーツ教育学科	若干名	3	3	0
	健康・スポーツマネジメント	若干名	3	1	0
	計	若干名	6	4	0
計	スポーツ教育学科	320	1443	1304	577
	健康・スポーツマネジメント	200	1011	885	514
	計	520	2454	2189	1091

<教育学部 教育学科>

入試制度	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合型選抜	小学校教育	10	27	27	11
	保健体育教育	10	44	44	11
	計	20	71	71	22
学校推薦型選抜E	小学校教育	6	46	46	14
	保健体育教育	15	94	93	26
	計	21	140	139	40
学校推薦型選抜F	小学校教育	24	58	57	39
	保健体育教育	5	65	63	13
	計	29	123	120	52
一般選抜A日程	小学校教育	22	230	225	148
	保健体育教育	20	348	344	113
	計	42	578	569	261
一般選抜B日程	小学校教育	4	93	37	30
	保健体育教育	3	136	56	18
	計	7	229	93	48
一般選抜後期	小学校教育	4	16	12	4
	保健体育教育	2	21	16	3
	計	6	37	28	7
計	小学校教育	70	470	404	246
	保健体育教育	55	708	616	184
	計	125	1178	1020	430

2020年が始まってまもなく感染が表面化した新型コロナウイルスは、世界中に感染が拡大する中で、大阪体育大学にも大きな影響を及ぼした。岩上安孝学長を委員長とし、副学長、学部長、大学院研究科長、事務局長らで構成する危機管理委員会を招集して事態の対応にあたった。

3月17日の修了式と卒業式、4月2日の入学式は、規模や内容を縮小したうえで開催する可能性をギリギリまで探したが、諸情勢を勘案してやむを得ず中止を決定。その他の学内、学外イベントも相次いで中止となった。入試は1月31日以降の一般選抜A日程、B日程、後期では受験会場に手指消毒剤やマスクを用意し、受験生に利用を呼びかけたうえで、実施された。また、教職員の会議などは密集による感染を防ぐために、中央棟大会議室やL号館201教室など広いスペースで実施し、お互いの間隔を極力あけるなどさまざまな対応を取った。

新型コロナウイルス影響 卒業式、入学式など 中止

危機管理委員会に対応

新年互例会 大島鎌吉賞に4監督



(右から) 野田理事長、栗山監督、楠本監督、石居監督、松尾監督、岩上学長

2020年、令和2年がスタートし、1月9日、教職員が一堂に会し新年互例会が行われた。野田賢治・浪商学園理事長は「法人100周年まで2年を切った。この大きな節目に向けて、さらに大きく飛躍するよう改革が望まれる」とあいさつ。岩上安孝学長は「体育、スポーツ領域というブランド商品を扱う専門店としての自信を持ちながら、歴史をつないでいきたい」と述べた。

恒例の「大島鎌吉賞スポーツ賞」は、ハンドボール部女子の監督、楠本繁生准教授が功労賞を受賞。奨励賞は、陸上競技部男子の監督、栗山佳也教授▽サッカー部男子の監督、松尾元太講師▽サッカー部女子の監督、石居宣子講師が受賞し、授与式が行われた。

楠本監督は、「令和元年度全日本学生ハンドボール選手権大会」でハンドボール部女子を7連覇の快挙に導いた指導力が称えられた。

栗山監督は、2019年日本学生陸上競技個人選手権大会の男子やり投げで坂本達哉（大学院1年）が優勝した功績が評価された。松尾監督と石居監督のサッカー部は、第30回ユニバーシアード競技大会に、男子は田中駿汰（体育4年）と林大地（同）、女子は今田怜那（同）が出場。日本は男子が優勝、女子は準優勝の成績を収め、大阪体育大学の3選手も大いに貢献した功績で両監督の受賞となった。

運動部改革プランシンポジウム

学生4人が登壇

大阪体育大学の2019年度スポーツ庁委託事業「運動部改革プラン」シンポジウムが2020年1月24日、本学で開催された。写真。中学・高校のクラブ活動が教員の長時間労働につながっているとして社会問題化する中、大学生が「部活指導員」「外部指導者」としてクラブ活動に関わる意義などについて意見交換が行われた。

現在、中学校の部活を指導している大生4人が登壇し、やりがいを感じている点などを発表した。部活は種類が多く、経験も知識もない教員が顧問を務めざるを得ないケースでは、教員自身の負担が大きいくでなく、運動部の場合は事故につながる危険もある。顧問の教諭を

補助するのが大学生で、学校側からは「きちっとした練習メニューを作ってもらえるのでありがたい」などと感謝の言葉が述べられる一方で、「約束の時間を守ってもらえない」「（教育上の）部活の狙いが理解されていない」など改善希望も出た。



学長特別表彰

受賞者は次の通り。

【団体】ハンドボール部女子（高松宮記念杯女子第55回令和元年度全日本学生ハンドボール選手権優勝）

【個人】ヒップホップダンス 中村春陽（2019 ICU World Cheerleading Championships 優勝など）▽チアダンス 柴山桃夏（The Cheerleading and Dance Worlds Championship 2019 4位）▽サッカー 田中駿汰、林大地（第30回ユニバーシアード競技大会優勝）、今田怜那（第30回ユニバーシアード競技大会準優勝）▽アルティメット 泉風翔（WFDF世界U-24アルティメット選手権ウィメン部門2位）、横山竣平（同メン部門4位）▽なぎなた 福岡歩、大仲麻友（第58回全日本学生なぎなた選手権演技の部優勝）▽陸上・やり投げ 坂本達哉（2019日本学生陸上競技個人選手権優勝）

クラブ活動で顕著な功績のあった学生を対象とした2019年度学長特別表彰が、2020年1月29日に行われた。ハンドボール部女子など10人と1団体が表彰された。

表彰式で岩上安孝学長は冒頭「本学すべてのクラブに対し、この1年の努力、精進にお礼申し上げます」と集まった学生らに感謝を伝え、中でも好成績を上げた表彰者らを「基本の積み重ねの上に技がある。勝ち抜いていく強さには、単調なことをコツコツやり抜く強い意志がある。」

さらに上の舞台で通用するようパワーアップしていただきたい」と称えた。

学友会の内山智貴会長（教育3年）が「皆さんの活躍は、後に続き自分たちも頑張ろうという気になります。新たなステージでの活躍を微力ながら応援します」と述べた。

表彰された学生を代表してハンドボール部女子の秋山静香主将（体育4年）が「これからもおごることなく、さらなる高みを目指して精進します」とあいさつした。

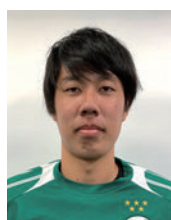
【個人】



中村 春陽（ヒップホップ）



柴山 桃夏（チアダンス）



田中 駿太
（サッカー）



林 大地
（サッカー）



今田 怜那
（サッカー）



坂本 達哉
（やり投げ）



泉 風翔・横山 竣平
（アルティメット）



福岡 歩（右）・大仲 麻友
（なぎなた）

【団体】



ハンドボール部女子



学長特別表彰された皆さん



あいさつする福田芳則副学長



酒井哲雄客員教授のユニークな講演



大学での取り組みなどを報告したパネルディスカッション

大阪体育大学の「海洋スポーツキャンプ実習」が30周年を迎えたのを記念し、2020年2月2日、大阪市西区の大阪YMCA会館で、「海洋スポーツキャンプの教育的価値を創造する」と題してシンポジウムが行われた。大体大の海洋キャンプはYMCAが運営する徳島県阿南市の阿南国際海洋センターで実施しており、大阪YMCAの関係者も出席して今後も連携を誓い合った。

基調講演①で酒井哲雄・大体大客員教授は、自身のキャンプ活動を振り返りながら「日本は海洋国家だ。海を知り、海への展望を持つことは私たちの生存に必要だ」と語った。基調講演②は大体大の野外活動実習を率いてきた福田芳則・副学長。「海洋スポーツキャンプの意義は『人間力を育てる』に尽きる。自然を相手に判断力が求められる、学生だけでなく教員も指

記念シンポジウム

海洋スポーツ キャンプ実習 30 周年 野外活動の教育的価値を討論

導者として鍛えられた」と胸を張った。

シンポジウムには大体大の卒業生でもある横山誠・大阪国際大学准教授（経営経済学部）がパネリストで登壇し、大阪国際大の取り組みを紹介。大体大はカヌーやヨットなどスポーツ体験に特化しているが、大阪国際大では地元の漁業協同組合と提携し、漁業に接していることなどを説明した。

海と山との違いを問われ、伊原久美子・大体大准教授（体育学部）は「様々な野外活動の中で、海上での活動には『死ぬかもしれない』という死の近さにリアリティがある。だからこそ学生の本気が現れ、新たな面を引き出すことができる。今の世の中はリスクを排除するのが当たり前なので、取敢えてリスクと向き合う状況に身を置くことは教育的価値が高い」と述べた。

体育学部と教育学部が同時開講

菅平でスキー実習

総勢245人が大自然を満喫

2019年度のスキー実習は、2020年2月11日から15日までの5日間、長野県の菅平高原スキー場で実施され、総勢245名の学生と約60名の教職員、学生スタッフが参加した。今回より、教育学部（野外活動実習Ⅱ）も同時開講となり、スキー実習の歴史に新たな一歩を刻む年となった。体育学部1年生210名は例年通り「ヴェルソワ」（旧山喜荘）でお世話になり、上級生と教育学部の35名は「ヴィラ十の原」にお世話になった。

初日は、体育学部・教育学部ともに班分けテストを行い、レベル別に27班に分かれた。1班を除く26班分は本学の教員が指導を行ったが、これほどの規模の指導を学内教員が担うのは、全国的にみても類はなく、誇るべきものである。これまでの伝統や、教職員の理解と協力の賜物である。

スキー経験のある学生は少なく、1日目多くの班はブーツの履き方や、スキー板の着脱方法からスタートした。とはいえ、個人差はあるものの、多くの学生はあっという間に、スキーのコツを吸収し、楽しく滑る声がゲレンデに響いた。体育大学生の身体能力と指導教員の指導力の成せる業である。



スポーツ科学センター20周年 各方面の専門家招く

大阪体育大学のスポーツ科学センターが20周年を迎え、2020年2月21日、本学で記念シンポジウムが行われた。トレーニングルームとしてスタートし、20年かけて教育と研究を融合させたスポーツ科学センターに。シンポジウムではスポーツ科学の専門家らが、アスリートをどのようにサポートしているか現状や今後の課題を語った。

センター長の梅林薫教授（体育学部）が「OUHSスポーツ科学センターをアップデートする」と題して講演。各競技団体や行政、他大学とも連携した事業を紹介し、「西日本・関西のスポーツ医学、スポーツ科学のサポート拠

点として充実させていきたい」とさらなる進化を誓った。

国立スポーツ科学センター（JISS）の久木留毅・センター長は「トップアスリートのパフォーマンス向上には医学のサポートが欠かせない。東京オリンピックに向けて予算が大幅に伸びた」とし、東京五輪のその先に向けては「スポーツ医学、科学の知見を広く国民に還元しなければ、予算が取れなくなる」と国民への還元がポイントになると述べた。

筑波大学ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センターの征矢英昭・センター長は「人の最適活力は総合的なトレーニング計画で実現される」とし、「ヨガや太極拳のような緩やかな運動は認知機能に良い影響を与える」と国民生活の質の向上に資する研究内容を発表した。

日本ゴルフ協会、関西テニス協会、和歌山県教育委員会の関係者らのパネルディスカッションもあり、大体大のスポーツ科学センターと競技団体、行政との連携サポートについて話し合った。



パネルディスカッション



20周年を記念して行われたシンポジウム



2日目以降は、半日を使ってラングラウフ（クロスカントリースキー）を実施し、ゲレンデ外の大自然に踏み込んだ。通常は滑降するスキーが、歩くこともでき、斜面を登ることもできることに感動しつつ、新雪の中へ飛び込んだり、跡一つないまっさらな雪面を歩いてみたり、自然を満喫する時間となった。

また実習中、清泉会（大阪体育大学OB会）長野支部会から、3期生の松原壮治さん、6

期生の西村友孝さん、関東支部会から4期生の下村俊幸さんが実習の激励に来てくださった。OBからの言葉は現役生にも響き、一層引き締まった顔になった。こういったOBの方とのしつかりした繋がりは、大阪体育大学の強みでもある。



5日間の実習は、スキー技術の向上だけではなく、スキーを通じた新たな仲間との出会いや関係性の深化、自身と向き合う重要性など、多くの学びと絆を生んだことと思う。この経験を、さらに学生生活を充実させられるよう活かしてほしい。

最後になりましたが、スキー実習にご協力頂いた先生方、職員、OBの皆様にご礼申し上げます。

【スキー実習副主任 徳田真彦】

特別支援教育をテーマに教育講演会開催 パラリンピックのメダリスト講演

「違いがあるから 社会は豊かになる」

「障害児・者の正しい理解と適切な支援を行うために」をテーマにした地域公開講座「特別支援教育 教育講演会」が2020年2月23日、大阪体育大学中央棟大会議室で開かれ、小中高校や特別支援学校の教諭らが参加した。

ル1個を獲得した日本のパラリンピアン・のレジェンド。国際パラリンピック委員会が公認する教材「I'm POSSIBLE」(アイム・ポッシブル) 日本版の開発や普及に尽力している。

日本財団パラリンピックサポートセンターのマセソン美季さんが「2020パラリンピックを題材に共生社会を考える」をテーマに講演。マセソンさんは1998年長野パラリンピックのアイススレッジスピードレースで金メダル3個、銀メダ

マセソンさんは教材の「I'm POSSIBLE」について、「パラリンピックの基礎知識・魅力を学ぶ」「パラリンピックの価値を学ぶ」「パラリンピックを題材に共生社会を考える」の三つのステップについて語り、「子どもの障害ではなく可能性から授業を組み立ててほしい」と呼び掛けた。



特別支援教育について熱く討議した講演会

講演の後、「インクルージョンについて考える」をテーマに参加者は3〜4人ずつに分かれてグループワークを実施。「視覚障害を持つ子供のいる学級でベースボール型球技をするにはどうすればいいか」という課題に、参加者らは、「教え方」「ルール」「環境」「用具」の四つの観点から考え、キックベースボールなどの提案が出た。マセソンさんはパラリンピック教育で大切なのは「教育によって違いが当たり前になり、違いがあるから、

1、2年生向け就職支援キャリアフェスタ

卒業生のラグビー 元日本代表主将ら講演

社会は豊かになるという価値観を伝えること」と述べた。
午後からは教育実践シンポジウム。マセソンさんに加え、東



マセソン美季さん

京都東久留米市立南町小学校の石塚智弘教諭が「小学校でのパラリンピック教育の実践」、都立府中けやきの森学園の横井路彦教諭が「特別支援学校でのパラリンピック教育の実践」と題して学校の取り組みを報告。その後、大体の曾根裕二准教授の司会で3人が議論し、参加した広島県や兵庫県などの教諭から質問が出るなど有意義な情報交換が行われた。

「来年の目標、卒業後の目標を考えてみる」をテーマにした就職支援イベント「キャリアフェスタ」が2020年2月17日、開催され、体育、教育両学部の1、2年生全員が参加した。
1年生のサブテーマは「将来について考えよう」。ラグビー元日本代表主将の菊谷崇さん(34期卒)は「繋がり」と題して講演した。ラグビーに打ち込んだ日々を振り返り、「自分のやりたいことや目標を見つけ、学生生活の中でしっかり準備する。目標を1人で見つけるのが難しいのなら、これまで培った『繋がり』を存分に生かしてほしい」と訴えた。
20年前に両目の視力を失った石川一弘さん(14期卒)も講師で登場。神戸市立摩耶兵庫高校保健体育課教諭をしており「教師として生きる。教えることの喜び、学ぶことの感動、見えなくてもできる!ではなく、見えなくてもできる」をテーマに講演。「苦しいことやしんどい

ことから逃げないで。苦しいと感じるのは、自分がまだあきらめていない証拠」と学生らを励ました。
2年生のサブテーマは「先輩(4年生)から『社会』を感じる」。企業就職や教員採用が決まった4年生約30人が、C号館の13教室に分かれ自身の就職活動を披露した。就職先は、小中学校と特別支援学校のほか、西日本旅客鉄道(JR西日本)、デサントジャパン、コナミスポーツ、スポーツニッポン、海上保安庁、青年海外協力隊など多彩な企業、団体、官公庁。2年生は希望のブースを回り、4年生のアドバイザーに熱心に耳を傾けた。
大体大のキャリア支援センターでは、翌日の2月18日にも「スポーツメーカーをリアルに知ろう」をテーマにしたコラボ就活支援イベントを開催。こうした取り組みの成果として、卒業生は多くの著名な企業に就職を果たしており、企業からは「コミュニケーション能力が高く、クラブ活動で仲間と励まし合い切磋琢磨した経験が生きている」(USENINEXT HOLDINGS)、「スポーツで培った協調性や精神面の強さがある」(阪急電鉄)などと評価する声が上がっている。



菊谷崇さんの講演

ファースト・コンサート



コラム **ボーチャー**

名誉教授 和田隆夫

以前「15分間のジャズ」でジャズが好きになった頃の思い出を書きました。今も好きで、さっきまで菊地成孔＋大谷能生『東京大学のアルバート・アイラー ～東大ジャズ講義録・歴史編』で紹介されている音源をYou Tubeでさがし、プレイリストにまとめ、公開する作業をしていました。同書は、2004年に東京大学でおこなわれた授業の記録です。この授業では、十二音平均律の話から始まり、すぐにパークリー・メソッドの意義とつなげて、1950年代以降のジャズの歴史が講ぜられています。この作業がさきほど山を越え、いまミリアム・アルター・クイントットのReminiscenceを秘やかに流しています。このアルバムは澤野工房からリリースされたもので、ベルギー出身のピアニスト、ミリアム・アルターの甘美で哀愁たどようソロ演奏は年齢高めの男女の恋をオシャレに切なく表現しています。

さて今回のテーマは、「初めて行ったコンサートを覚えていますか」です。



ぼくファースト・コンサートは、1961年頃、ちょうど小学校3年生の時、勤労者音楽協議会、いわゆる「労音」の会員だった従姉になかば強引に連れていかれたダークダックスでした。なぜダークダックスだったのか、いまもってよくわかりません。

たしかにダークダックスは1957年にロシア民謡「としび」を大ヒットさせていて、労音の会員が小学3年生の男の子に聴かせようと思うことは当時の社会状況を考えればなんとなく理解できます。でもぼくの音楽生活がダークダックスで始まり、それが嗜好の大きな流れを形成したことはたしかです。ロシア民謡にハッシュタグがついたといえいいのかな。ただ当時のぼくは、『パパはなんでも知っている』や『うちのママは世界一』といったアメリカのホームドラマにどっぷり洗脳されていて、



ドラマの中で子どもたちが自宅の大型冷蔵庫からアイスクリームを出して食べているのがうらやましかった頃です。小3にしてすでに樗坂46が歌うように、米・ソの間で『アンビバレント』でした。

今さら言ってもせんなきことですが、たとえば1952年に「テネシーワルツ／カモナマイハウス」でデビューした江利チエミのコンサートからスタートしていたら、ジャズとの出会いは高校3年生まで待つことはなかったでしょう。きっと渡辺貞夫や日野皓正を聴く前に、笠置シズ子の『大阪ブギウギ』でみせたスウィング感を理解し、高島忠夫のテナーの美しさに憧れ、マーサ三宅の偉大さにひれ伏し、そして松尾和子の色気と艶っぽさに高校生といえども、たじろぐことなくアルバム『夜のためいき』を女性ジャズボーカルの名盤として聴けたでしょう。とくにGolden Earringsは秀逸で、若きぼくはしびれていました。



本当にファースト・コンサートは大切です。この年に秋吉敏子はパークリー音楽院を卒業して、『黄色い長い道』をリリースし、その3年前にはルイ・マル監督の『死刑台のエレベーター』が封切られ、冒頭にマイルス・デイヴィスのトランペットが切々と流れるといった、モダンジャズが若いインテリや文化人に認められるきっかけとなった時期です。2年前には石原裕次郎が『嵐を呼ぶ男』でかつこよくドラムソロをして（ただし実際は東京芸術大学を中退して当時24歳だった夭折のジャズ・ドラマー、白木秀雄のプレイ）、ジャズが世に認められる素地ができた時期でもあります。これではぼくが歌声喫茶とジャズ喫茶に今も郷愁を覚えるのはしかたないですね。

ところであなたのファースト・コンサートは誰ですか？
そこで何を体験しましたか？

音楽ってやっぱりいいですね。

大阪体育大学を発着点とする「くまもとロードレース」も開催できず、体がムズムズしている市民ランナーも多いのでは。大学内での様々な行事も影響を受けました。全国から学生トレーナーが集まり、学習や情報交換をする「第23回学生トレーナーの集い」は、今年は大体大がホスト大学でしたが、これも中止。退官される福田芳則教授の最終講義もなくなりました◆◆準備を積み重ねてきたイベントを中止するのは、当事者にとって非常に苦しいことです。さらに、断腸の思いでの決断に対し「残念」「がっかり」という声が寄せられます。こうした撤退が、決行か、の決断を迫られた時、勇気ある撤退を選んだ例として思い浮かぶのは、1954年（昭和29年）の青函連絡船、洞爺丸の海難事故です。津軽海峡を襲った台風で青函連絡船は運行を見合わせていましたが、風が収まり晴れ間がのぞいたことから洞爺丸は函館から青森に向けて出港。再び襲ってきた嵐に巻き込まれて沈没。千人以上が亡くなりました。一方、青森側で待機していた羊蹄丸は慎重を期して出港しませんでした。羊蹄丸の船長は乗客から「晴れているのになぜ出港しないんだ」と非難。この中、じつとそれに耐えました◆◆洞爺丸が沈没し、出港しなかった英断を高く評価された羊蹄丸の船長は「経験したことがない天候で、この先どうなるか予測できなかった。分らないから自然に対し謙虚であらうとした」と言っています。60年以上の歳月を経ても、大自然の脅威に向き合う心構えとしては全く色あせない言葉です。

【和泉かよ子】



◆◆令和2年は明け早々から新型コロナウイルス感染症の危機が世界を覆いました。大勢が集まるイベントなどは軒並み中止



極める力。

人を学び、育て、支える。

大阪体育大学

【大学院】

- スポーツ科学研究科
博士（前期・後期）課程

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

大学事務局

庶務部、教学部、入試・広報部
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設

図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター

支援組織

教養教育センター、キャリア支援センター
教職支援センター、学習支援室
学生相談室・カウンセリングルーム

<https://www.ouhs.jp>